

## 焼き焦げの表現によるイラストレーションポスター

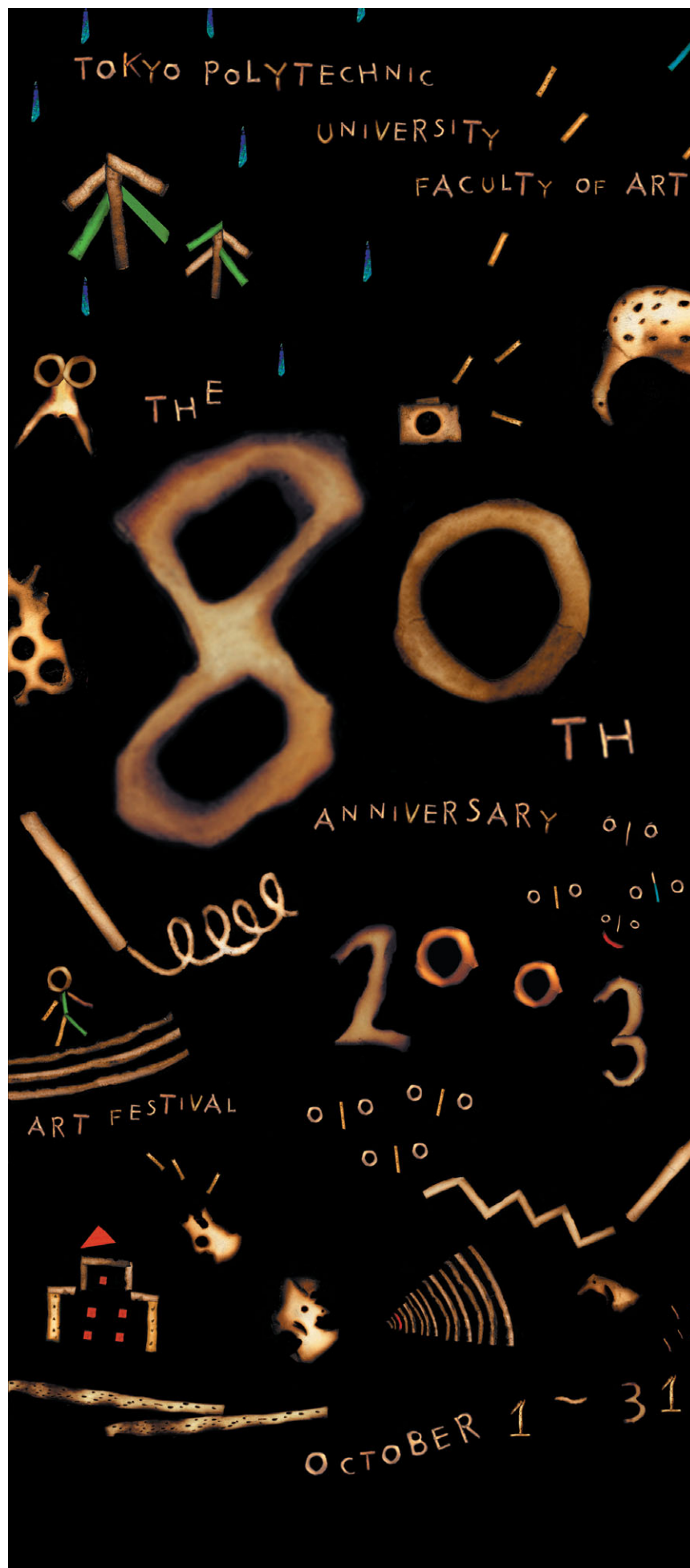
デザイン学科ビジュアルコミュニケーションコース

末房志野

## Illustration (expression by scorch) Poster

Department of Design Visual Communication Course

SUEFUSA SHINO





Concert Hall SOGAKUDO  
Organized by The Performing Arts Center  
Tokyo National University of Fine Arts and Music  
Composed by Kiyotaka Noda

La Nuit dans  
la musique  
du 20e siècle





1/22 [水] - 1/26 [日] ◎志田展哉 (日本画) / ○高橋浩規 (デザイン) 1/29 [水] - 2/2 [日] ◎G.S.カビール (絵画) / ○木村順人 (版画) 2/5 [水] - 2/9 [日] ◎李 允眞 (彫刻) 2/12 [水] - 2/16 [日] ◎コレネオ・セザル (彫刻) / ○丁 憲均 (陶芸)  
3/26 [水] - 3/30 [日] ○坂井龍俊 (彫金) / ◎張 大石 賀岡直典 中石恵理子 荒木恵康 (文化財保存学) 4/2 [水] - 4/6 [日] ○黄 水華 (書画) / ◎宮田洋紀 (日本画) 4/9 [水] - 4/13 [日] ◎才木康平 (日本画) / ○山本浩之 (日本画)  
4/16 [水] - 4/20 [日] ○永野志野 (デザイン) 4/23 [水] - 4/27 [日] ○山崎秋人 (油画) ◎= 展示館1階 ○= 展示館2階 主催: 平成14年度 東京藝術大学博士課程研究発表委員会 <http://www.geidal.ac.jp> 協賛: 財団法人野村浩徳文化財団

平成14年度 東京藝術大学博士課程研究発表展  
会場: 東京藝術大学展示館 1,2階 開場: 10:00~17:00 (月、火は休館)

The University Art Museum  
Chinretsukan Gallery 1F,2F

Open from 10:00 to 17:00  
Closed on Mon. and Tue.

造形表現に携わるものにとって、誰もが経験することだと思うが、偶然生み出された効果が表現の新しい飛躍をもたらしてくれることがある。自分自身予期しない形態や色調が画面の上に現れたり、また予想もしない技術や技法が突然獲得できたりする驚きと喜びは他に喩えようもない。そういう発見の積み重ねが表現の深化となるのだと思う。

私の場合がそうであった。自分のイラストレーションの表現について模索し、絵の具の表現に限界を感じていたころ、偶然手元にあった紙を炙ってみると、焦げ臭いにおいととも、黒く焼け焦げた小さな穴とその周囲の茶褐色の微妙な色調とが出現した。自分の手によって作り出されたその痕跡の美しさは、私にとって新しい発見であった。

この焼け焦げによる効果は私に新しい方法を与えてくれた。焦げ痕の“穴”は“線”になり、さまざまな形の輪郭線になった。私は画面を切り裂いたり穴を開けたりして作品を制作するようになった。表現の内容と表現の技法は不可分の関係にある。この技法を獲得したことで私の表現はより単純なもの、より自然なもの、より原初的なものを目指すようになった。このことは今日に至るまで私の中で変わっていない。

この技法には、紙が燃え尽きてしまったら形がなくなってしまう、微細な形は作れない、一度燃えたと二度と同じ形は作れない、といった制約があったが、そのような制約があることによって、むしろ自分のイメージする方向が定まり、表現が自由になるような予感がした。

白い紙の上にできた焦げ痕を見ていると、それは私の行為の痕跡が、紙の上に消えない傷のように残っているかのようだった。“あと”という字には2種類ある。「跡」は足跡のことである。「痕」は傷痕のことで、物事に刻まれた痕跡を意味する。私はこの焼け焦げのあとを見て、「痕」の字を使用することにした。「焼く」という行為は人為的に火で炙り物質の状態を変化させることである。「炭を焼く」といえば木材を蒸し焼きにして炭化させることであり、「陶器」を焼くといえば粘土の土を高温で変質させ、結合を強化することをいう。写真を焼き付ける、記憶を心に焼き付ける、など物事をしっかりと定着させる場合にも使用される。

つまり私の技法は、物質=紙の状態を変化させるのであって、絵の具などによって紙の表面を着色する表現とは異なったものである。

3頁目に掲載した作品は、シルクスクリーン印刷によるものである。焦げ痕の再現はCMYKのうち、シアンを抜いた3色での再現が可能であるが、この印刷の美しさが最も表われるのは、単色で平坦な色面による。焼け焦げの線で描いた絵を、思いきって黒1色で印刷すると、焦げた色は消えるが、線の表情だけが残る。シルクスクリーン印刷に限らず、メディアによって色数が限定される時は、焼き焦げの線の表情だけを抽出する、この手法が利用できる。

#### 作品 1

「東京工芸大学 80 周年記念アートフェスティバル」のためのポスター

2500×1100 mm/inkjet-print

#### 作品 2

ピアノコンサート「20 世紀音楽で綴る夜」のためのポスター

1030×728 mm/silkscreen

(社)日本グラフィックデザイナー協会年鑑掲載、The 4th Block 展(ウクライナ)入選、Korea International Poster Biennale 入選

#### 作品 3

展覧会「東京藝術大学博士展」のためのポスター

1030×728 mm/silkscreen

(社)日本グラフィックデザイナー協会年鑑掲載